

大学院生シンポジウムGS03

環境化学物質による内分泌かく乱研究の新展開

New Approach on Environmental Endocrine-Disrupting Chemicals

青木 明¹, 宮良 政嗣²

¹岐阜薬大, ²広島大院医歯薬

環境中の化学物質や薬物の中には、慢性的に長期間曝露されることで悪影響がはじめて表現型として現れるものがある。このような例として、内分泌かく乱物質があるが、それら毒性発現のメカニズムや毒性評価・予測法など多くのことが未解決のままである。本シンポジウムでは、環境中に存在する化学物質も含めこれらが引き起こす内分泌かく乱に焦点を当て最近の研究成果を紹介する。最近では、内分泌かく乱物質がエピジェネティクスのかく乱をきたし、親から胎児へそして次々世代への悪影響も示唆されている。したがって、これら物質から身体を守り、日々安全に暮らすためには、かく乱メカニズムの解明と共に毒性を予測する新規バイオマーカーの発見など、喫緊に解決しなければならない課題が山積している。内分泌かく乱研究が一段落した今だからこそ、再度話題を提供し、皆が考える機会を設ける必要がある。